

# 古文ドリル：敬意の方向 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

## はじめに：敬意の方向とは

古文の敬語問題で **最頻出**なのが「敬意の方向」。

「誰から誰への敬意か」を問う問題。

敬語の種類	敬意の方向
尊敬語	<b>動作主</b> を敬う
謙譲語	<b>動作の受け手</b> を敬う
丁寧語	<b>聞き手・読み手</b> を敬う

## 「誰から」の判別

### 地の文（地の文章）

- 敬意の発信者 = **作者**

### 会話文

- 敬意の発信者 = **話し手**（その会話をしている人物）

### 心内文（心の中の独白）

- 敬意の発信者 = **心内で思っている人物**

### 手紙文

- 敬意の発信者 = **手紙の書き手**

## 「誰へ」の判別

### 尊敬語

- 動作主**（その動作をしている人）への敬意

## 謙讓語

- **動作の受け手**（その動作を受ける人・到着点）への敬意

## 丁寧語

- **聞き手**（会話の相手） or **読み手**（地の文の場合）

## 識別の鉄則

1. **地の文 or 会話文 or 心内文** をまず確認
2. 敬語の **種類**（尊敬／謙讓／丁寧）を判定
3. 「誰から」「誰へ」を **動作の構造** で特定

## 二重敬語

二重敬語（せたまふ・させたまふ・しめたまふ）は **最高敬意**。天皇・皇族・摂関級など、最上位の人物への敬意を示す。方向の構造は通常の尊敬と同じ（地の文＝作者→動作主）。

## 敬意の方向の典型パターン

場面	発信者	敬語種類	受け手
地の文・尊敬	作者	尊敬	動作主
地の文・謙讓	作者	謙讓	動作の受け手
会話文・尊敬	話し手	尊敬	動作主
会話文・謙讓	話し手	謙讓	動作の受け手
会話文・丁寧	話し手	丁寧	聞き手
地の文・丁寧（日記等）	作者	丁寧	読み手

## 🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

### コツ① 「から」は 会話文か地の文か で2択即決

カッコ「 」の中なら **話し手**、カッコの外なら **作者**。これだけで「誰から」は8割解ける。 - 地の文 → 作者から - 会話文「 」 → 話し手から - 心内文（～と思ふ） → 思っている人から - 手紙文 → 書き手から

### コツ② 「へ」は 敬語の種類で公式化

- **尊敬** → 動作主へ
- **謙譲** → 動作の受け手へ
- **丁寧** → 聞き手（会話文）／読み手（地の文）へ

種類さえ決まれば「誰へ」は公式に当てはめるだけ。

### コツ③ 「給ふ」の活用で「誰へ」の対象が変わる

- 四段「給ふ」（尊敬） → 動作主へ
- 下二段「給ふ」（謙譲） → 動作の受け手（多くは聞き手）へ

例：会話文中の「思ひ給へ」（下二段） → 話し手から **聞き手** への敬意（謙譲）

### コツ④ 二重敬語の方向は通常の尊敬と同じ

「せたまふ／させたまふ／しめたまふ」を見ても、**方向の構造は普通の尊敬と同じ**。地の文なら「作者→動作主」、会話文なら「話し手→動作主」。最高敬意のニュアンスは方向問題では問われない。

### 試験本番でのチェック順序

1. その敬語が **地の文／会話文／心内文／手紙文** のどこにあるかを確認 → 「誰から」決定
2. 敬語の **種類**（尊敬／謙譲／丁寧）を判定
3. 種類に応じた公式（尊敬＝動作主、謙譲＝受け手、丁寧＝聞き手／読み手）で「誰へ」決定
4. 「給ふ」は **活用** をチェックして種類を間違えない

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

### よくある引っかけ

- 会話文中の敬語を「作者から」と答える → 会話文は **話し手から**
- 謙譲を尊敬と取り違えて方向を間違える → 種類の判別が先
- 丁寧語の対象を動作主と答える → 丁寧は **聞き手・読み手** へ
- 心内文の敬語を作者からと誤答 → 心内の主体（その登場人物）から

## 採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

## 【第1部】基礎編 (Q1~Q20)

地の文・会話文の基本パターン。

### Q1. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御文書か**せたまふ**。

**答え** : 作者 → 帝 **解説** : 地の文の尊敬二重敬語。動作主の帝を作者が敬う。

### Q2. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大臣、御文を**奉る**。

**答え** : 作者 → 御文の受け手 (高貴な人) **解説** : 地の文の謙譲語。動作の受け手 (御文を差し上げる相手) を作者が敬う。

### Q3. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「これは尊く**侍り**」

**答え** : 話し手 → 聞き手 **解説** : 会話の丁寧語。話し手が聞き手を敬う。

### Q4. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、**御覧ず**。

**答え** : 作者 → 中宮 **解説** : 尊敬語。動作主の中宮を、作者が敬う。

**Q5. 敬意の方向を答えよ。**

(会話文)「我れ、御文を奉り侍り」

答え：「奉り」話し手 → 御文の受け手（高貴な人）／「侍り」話し手 → 聞き手 解説：「奉る」（謙譲）→受け手、「侍り」（丁寧）→聞き手。二重の敬意。

---

**Q6. 敬意の方向を答えよ。**

(地の文) 法皇、御幸おはす。

答え：作者 → 法皇 解説：尊敬語。動作主の法皇を作者が敬う。

---

**Q7. 敬意の方向を答えよ。**

(会話文)「君に仕うまつり侍り」

答え：「仕うまつり」話し手 → 君（動作の受け手）／「侍り」話し手 → 聞き手 解説：「仕うまつる」（謙譲）→受け手「君」、「侍り」（丁寧）→聞き手。

---

**Q8. 敬意の方向を答えよ。**

(地の文) 上、御文書かせたまふ。

答え：作者 → 上 解説：二重敬語。動作主の上（天皇）を作者が敬う。

---

**Q9. 敬意の方向を答えよ。**

(会話文)「いま参り候ふ」

答え：「参り」話し手 → 行き先の高貴な人／「候ふ」話し手 → 聞き手 解説：「参る」（謙譲）→行き先、「候ふ」（丁寧）→聞き手。

---

**Q10. 敬意の方向を答えよ。**

(地の文) 中宮、御簾を上げさせたまふ。

答え：作者 → 中宮 解説：尊敬の二重敬語。

---

### Q11. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大納言、御前に**候ふ**。

答え：作者 → 御前の高貴な人 解説：「候ふ」謙譲。お仕えする対象（御前にいる高貴な方）を敬う。

---

### Q12. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「我れも参らんと**申し侍り**」

答え：「申し」話し手 → 申し上げる相手 / 「侍り」話し手 → 聞き手 解説：「申す」（謙譲） → 受け手、「侍り」（丁寧） → 聞き手。

---

### Q13. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 君、いと美しき御姿に**おはす**。

答え：作者 → 君 解説：「おはす」（尊敬・存在）。動作（存在）主体を敬う。

---

### Q14. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「いと尊く**思しめし侍り**」

答え：「思しめし」話し手 → 思いの主（高貴な人） / 「侍り」話し手 → 聞き手 解説：「思しめす」（尊敬） → 動作主、「侍り」（丁寧） → 聞き手。

---

### Q15. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 僧、御物を**賜はる**。

答え：作者 → 御物の与え手（高貴な人） 解説：「賜はる（給はる）」は謙譲語で「いただく・頂戴する」の意。動作の出発点（物を与えてくれる高貴な人）を敬う。

---

### Q16. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御琴弾か**せたまふ**。

答え：作者 → 帝 解説：二重敬語。

---

### Q17. 敬意の方向を答えよ。

(会話文)「これ、私が見奉り侍り」

答え：「見奉り」話し手 → 見る対象（高貴な人）／「侍り」話し手 → 聞き手 解説：「奉る」（謙讓補助）→受け手、「侍り」（丁寧）→聞き手。

### Q18. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 法皇、御使ひを遣はす。

答え：作者 → 法皇 解説：「遣はす」（尊敬）。動作主を敬う。

### Q19. 敬意の方向を答えよ。

(会話文)「君が仰せらるるやう」

答え：話し手 → 君 解説：「仰せらるる」（尊敬二重）。動作主の君を話し手が敬う。

### Q20. 敬意の方向を答えよ。

(会話文中の丁寧)「いま参り候ふ」

答え：話し手 → 聞き手 解説：「候ふ」丁寧。話し手が聞き手を敬う。

基礎編 / 20

## 【第2部】標準編 (Q21~Q50)

複合敬語・物語の典型・心内文。

### Q21. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中将、御琴を弾きたまふ。

答え：作者 → 中将 解説：「たまふ」（尊敬補助）。動作主の中将を作者が敬う。

## Q22. 敬意の方向を答えよ。

(会話文)「我れも、さ思ひ**たまふる**」

**答え**：話し手 → 聞き手 **解説**：「たまふる」(下二段・謙讓補助)は会話文限定で、話し手の動作を謙遜して聞き手に敬意を示す。

---

## Q23. 敬意の方向を答えよ。

(地の文)大臣、御文を**奉りたまふ**。

**答え**：「奉り」作者 → 御文の受け手 / 「たまふ」作者 → 大臣 **解説**：「奉る」(謙讓) → 受け手、「たまふ」(尊敬補助) → 動作主。同じ動作に二方向の敬意。

---

## Q24. 敬意の方向を答えよ。

(地の文)「これなむ都鳥」と**申しける**。

**答え**：作者 → 「都鳥」と申し上げた相手(高貴な聞き手) **解説**：「申す」は謙讓語。地の文で「申しける」と書いてあるパターン。「～と申し上げる」と訳し、その動作の受け手(聞き手)を敬う。作者から、申し上げられた相手への敬意。

---

## Q25. 敬意の方向を答えよ。

(地の文)帝、御酒を**参る**。

**答え**：作者 → 帝 **解説**：「参る」は飲食の場合は尊敬「召し上がる」。動作主の帝を敬う。

---

## Q26. 敬意の方向を答えよ。

(地の文)我れ、御所に**参る**。

**答え**：作者 → 御所の高貴な人 **解説**：「参る」(謙讓・参上)。行き先の高貴な人を敬う。

---

## Q27. 敬意の方向を答えよ。

(会話文)「『これは尊く**候へ**』と**申し侍り**」

答え：「候へ」話し手 → 聞き手 / 「申し」話し手 → 申し上げる相手 / 「侍り」話し手 → 聞き手  
解説：「候へ」は会話の中の会話（入れ子）の丁寧。

---

### Q28. 敬意の方向を答えよ。

（地の文）中宮、御文を御覽ぜさせたまふ。

答え：作者 → 中宮 解説：「御覧ず」尊敬 + 「させたまふ」二重尊敬。最高敬語。

---

### Q29. 敬意の方向を答えよ。

（地の文）「ただ今、参り候はむ」と申しけり。

答え：「候は」話し手 → 聞き手 / 「申し」作者 → 申し上げる相手 解説：「候は」は会話中の丁寧、「申し」は地の文の謙讓。発信者が異なる。

---

### Q30. 敬意の方向を答えよ。

（心内文）「我れ、いかでこの御方に仕うまつらん」

答え：心内で思う人 → 御方 解説：「仕うまつる」（謙讓）。心内文の発信者（思っている人物） → 動作の受け手（御方）への敬意。

---

### Q31. 敬意の方向を答えよ。

（地の文）大納言、いかにと思しめしめぐらす。

答え：作者 → 大納言 解説：「思しめす」（尊敬）。動作主を敬う。

---

### Q32. 敬意の方向を答えよ。

（会話文）「『君に奉らん』と仰せらる」

答え：「奉ら」話し手 → 君（受け手） / 「仰せらる」話し手 → 「仰せ」の動作主 解説：会話の中の謙讓 + 尊敬。引用元の人物への敬意。

---

### Q33. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 若君、御湯召したまふ。

答え：作者 → 若君 解説：「召す」尊敬+「たまふ」尊敬補助。動作主を敬う。

---

### Q34. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 御使ひ、御文を取り奉りて、まかり出づ。

答え：「奉り」作者 → 受け手（高貴な人） / 「まかり」作者 → 「まかる」の動作の到達点 解説：「奉る」（謙讓補助）+ 「まかる」（謙讓）。

---

### Q35. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 「御覧じたれ」とて、御ふみを奉る。

答え：「御覧じ」作者 → 御覧ずる人 / 「奉る」作者 → 御文の受け手 解説：「御覧ず」尊敬+「奉る」謙讓。発信は両方作者。

---

### Q36. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御物思はしげにおはしましけり。

答え：作者 → 帝 解説：「おはします」尊敬（おはすの強調形）。

---

### Q37. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「いままかり侍らむ」

答え：「まかり」話し手 → 退出する場所の高貴な人 / 「侍ら」話し手 → 聞き手 解説：「まかる」（謙讓・退出）+ 「侍り」（丁寧）。

---

### Q38. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、御髪を梳らせたまふ。

答え：作者 → 中宮 解説：「せたまふ」二重尊敬。

---

### Q39. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 『御覧ぜよ』と仰せらる」

答え：「御覧ぜよ」話し手 → 御覧ずる人 / 「仰せらる」話し手 → 仰せの動作主 解説：会話の中の引用+会話の動詞。両方とも話し手から。

### Q40. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大臣、御位を賜はせたまふ。

答え：作者 → 大臣 解説：「賜はす」(与えるの尊敬) + 「たまふ」尊敬補助。動作主の大臣を敬う。

### Q41. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 君、御心地いと苦しく思しめすを、慰め奉る。

答え：「思しめす」作者 → 君 / 「奉る」作者 → 慰める受け手 (君) 解説：「思しめす」(尊敬) → 動作主、「奉る」(謙譲) → 動作の受け手。同じ人物 (君) に対して尊敬と謙譲が混在する典型。

### Q42. 敬意の方向を答えよ。

(手紙文) 「君のおほせのこと、承りて侍り」

答え：「承り」書き手 → 承る相手 (君) / 「侍り」書き手 → 読み手 解説：手紙文では発信者は書き手、丁寧は読み手への敬意。

### Q43. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「さやうに仕うまつるべきやうにても侍らず」

答え：「仕うまつる」話し手 → お仕えする対象 / 「侍ら」話し手 → 聞き手 解説：「仕うまつる」(謙譲) + 「侍り」(丁寧)。

### Q44. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御湯を召して、入らせたまふ。

答え：作者 → 帝 解説：「召す」尊敬+「せたまふ」二重尊敬。

---

#### Q45. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 院、御衣を奉りて、出でたまふ。

答え：作者 → 院 解説：「奉る」は衣服では尊敬「お召しになる」。動作主を敬う。

---

#### Q46. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「我れ、君の御心を承り侍れば」

答え：「承り」話し手 → 君 (承る対象) / 「侍れ」話し手 → 聞き手 解説：「承る」(謙讓) + 「侍り」(丁寧)。

---

#### Q47. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 御使ひ、まかりまうでて、御文を奉る。

答え：「まかり」作者 → まかる先の高貴な人 / 「まうで」作者 → 詣でる先 / 「奉る」作者 → 御文の受け手 解説：三重の謙讓。すべて作者から動作の受け手・到着点への敬意。

---

#### Q48. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「『これは尊し』と申し侍り」

答え：「申し」話し手 → 申し上げる相手 / 「侍り」話し手 → 聞き手 解説：会話の中の謙讓+丁寧。発信者は同じ話し手。

---

#### Q49. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、ものもおほせられず。

答え：作者 → 中宮 解説：「仰せらる」二重尊敬+打消。中宮を敬う。

---

#### Q50. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 「まかり出で侍りなむ」と申しけり。

答え：「まかり」話し手 → まかる先の高貴な人／「侍り」話し手 → 聞き手／「申し」作者 → 申し上げる相手 解説：会話部分（「」内）は話し手から。地の文の「申しけり」は作者から。

標準編 / 30

## 【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

入れ子の会話・複数の敬語連動・特殊敬語。

### Q51. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大臣、御使ひに**申したまふ**。

答え：「申し」作者 → お使いの遣わし先の高貴な人／「たまふ」作者 → 大臣 解説：「申す」（謙譲）→受け手、「たまふ」（尊敬補助）→動作主。同一動作に二方向。

### Q52. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 「君よ、**いま参らせたまへ**」と**申し侍り**。

答え：会話「参らせたまへ」話し手 → 君／会話「申し」話し手 → 申し上げる相手（君）／会話「侍り」話し手 → 聞き手 解説：会話の中の二重敬語＋謙譲＋丁寧。

### Q53. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 「**いとかしこく思ひたまふる**」と**申しけり**。

答え：会話「たまふる」話し手 → 聞き手／地の文「申し」作者 → 申し上げる相手 解説：「たまふる」は会話文の謙譲補助、発信者の話し手が聞き手を敬う。

### Q54. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 御**文**、御**前**に**奉り給ふ**を、御覧**ぜさせたまふ**。

答え：「奉り」作者 → 御前の高貴な人／「給ふ」作者 → 奉る動作主／「御覧ぜさせたまふ」作者 → 御覧ずる人（高貴な人） 解説：謙譲＋尊敬補助＋二重尊敬。複数方向。

### Q55. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 『御覧ぜよ』と仰せらるれば、承り侍りぬ」

答え：会話の中の会話「御覧ぜよ」最内側話し手 → 御覧ずる人／「仰せらるれ」中間話し手 → 仰せの動作主／「承り」最外側話し手 → 承る相手／「侍り」最外側話し手 → 聞き手 解説：入れ子会話の典型。発信者と受け手をレベルごとに切り分ける。

### Q56. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御物の怪に悩みたまふを、皇后いと心苦しと思しめす。

答え：「たまふ」作者 → 帝／「思しめす」作者 → 皇后 解説：それぞれ異なる動作主への尊敬。

### Q57. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 御乳母、若君を抱き奉りて、まかり出づ。

答え：「奉り」作者 → 若君／「まかり」作者 → まかる先の高貴な人 解説：「奉る」（謙譲補助）→ 若君、「まかる」（謙譲）→ 到達先。

### Q58. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、御簾のうちにて、ものを仰せらる。

答え：作者 → 中宮 解説：「仰せらる」二重尊敬。

### Q59. 敬意の方向を答えよ。

(手紙文) 「承り侍りて、いとかたじけなく思ひたまふる」

答え：「承り」書き手 → 承る相手／「侍り」書き手 → 読み手／「たまふる」書き手 → 読み手 解説：手紙の中の謙譲＋丁寧＋謙譲補助（会話用法）。

### Q60. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 院、御文を遣はす。

答え：作者 → 院 解説：「遣はす」（尊敬）。動作主を敬う。

### Q61. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大納言、御前にさぶらひて、御物語申し上げる。

答え：「さぶらひ」作者 → 御前の高貴な人／「申し上げる」作者 → お話を申し上げる相手 解説：「さぶらふ」(謙譲・控える) + 「申し上げる」(謙譲)。

### Q62. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「いとかしこき御方なれば、畏まり侍る」

答え：話し手 → 聞き手 解説：「畏まる」 + 「侍る」(丁寧)。

### Q63. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、御文を御覧じて、いみじく愛でたまふ。

答え：「御覧じ」作者 → 中宮／「たまふ」作者 → 中宮 解説：両方とも動作主の中宮への尊敬。

### Q64. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「まうで来つ。仕うまつるべきこと侍らば」

答え：「まうで来」話し手 → 詣でた先の高貴な人／「仕うまつる」話し手 → お仕えする対象／「侍ら」話し手 → 聞き手 解説：謙譲+謙譲+丁寧。

### Q65. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 上、御物の怪にて、苦しませたまふを、皇后夜昼御祈祷せさせたまふ。

答え：「苦しませたまふ」作者 → 上／「させたまふ」作者 → 皇后 解説：両方とも別人物(上・皇后)への二重尊敬。

### Q66. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「御覧ぜさせ奉らばや」

答え：「御覧ぜさせ」話し手 → 御覧になる人／「奉ら」話し手 → 御覧になる人 解説：謙譲補助「奉る」も含めて、すべて御覧になる高貴な人(受け手)への敬意。

### Q67. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、かしこく御心を動かしたまふ。

答え：作者 → 帝 解説：「たまふ」尊敬補助。動作主の帝を敬う。

---

### Q68. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 『御物を賜はり侍りぬ』と申す

答え：会話「賜はり」話し手 → 物を与えた高貴な人 / 「侍り」話し手 → 聞き手 / 地の文「申す」作者 → 申し上げる相手 解説：「賜はる」(謙譲・いただく) → 出発点を敬う。

---

### Q69. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 中宮、御簾のうちにて、ものを仰せらるを、え聞こえず。

答え：「仰せらる」作者 → 中宮 / 「聞こえず」(一般動詞「聞こゆ」打消で謙譲ではない) 解説：「聞こえず」は「聞こえない」の意で謙譲ではない。混同注意。

---

### Q70. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「さやうに仕うまつるべきやうにても侍らず」

答え：「仕うまつる」話し手 → お仕えする対象 / 「侍ら」話し手 → 聞き手 解説：謙譲+丁寧。

---

### Q71. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 帝、御湯を召して、入らせたまふ。

答え：作者 → 帝 解説：「召す」「せたまふ」両方とも動作主の帝への尊敬。

---

### Q72. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 院、御衣を奉りて、御所より出でさせたまふ。

答え：「奉り」作者 → 院 (衣服の場合は尊敬「お召しになる」) / 「させたまふ」作者 → 院 解説：両方とも動作主の院への尊敬。「奉る」は衣服文脈で尊敬扱い。

---

### Q73. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「まかり侍りて、承りたることを申し侍らむ」

答え：「まかり」話し手 → まかる先の高貴な人 / 「侍り」話し手 → 聞き手 / 「承り」話し手 → 承る相手 / 「申し」話し手 → 申し上げる相手 / 「侍ら」話し手 → 聞き手 **解説**：謙譲＋丁寧＋謙譲＋謙譲＋丁寧の連続。

### Q74. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 入道殿、このことをいとねたく思しめしけり。

答え：作者 → 入道殿 **解説**：「思しめす」(尊敬)。

### Q75. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 大納言、御位を奉らせたまふ。

答え：「奉ら」作者 → 御位の受け手(より高位の人) / 「せたまふ」作者 → 大納言 **解説**：謙譲＋尊敬補助。同一動作に二方向。「位を譲る」典型。

### Q76. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「『君に奉らん』と思ひたまふる」

答え：会話「奉ら」話し手 → 君 / 「たまふる」話し手 → 聞き手 **解説**：謙譲＋謙譲補助(会話用法)。

### Q77. 敬意の方向を答えよ。

(地の文) 御使ひ、まかり帰りぬ。

答え：作者 → まかる先の高貴な人 **解説**：「まかる」(謙譲・退出)。出発点・到達点の高貴な人を敬う。

### Q78. 敬意の方向を答えよ。

(会話文) 「君は、いま御寝にて侍る」

答え：「御寝」話し手 → 君／「侍る」話し手 → 聞き手 解説：「御寝なり」（尊敬）→動作主、「侍り」（丁寧）→聞き手。

#### Q79. 敬意の方向を答えよ。

（地の文）帝、御琴を召して、御前にてあそばす。

答え：作者 → 帝 解説：「召す」「あそばす」両方とも動作主の帝への尊敬。

#### Q80. 敬意の方向を答えよ。

（会話文）「いと心嬉しく承りたまふる」

答え：「承り」話し手 → 承る相手／「たまふる」話し手 → 聞き手 解説：「承る」（謙譲）＋「たまふる」（謙譲補助・会話用法）。

応用編 /30

## 【第4部】入試レベル（Q81～Q100）

源氏物語・枕草子など難関大頻出。

#### Q81. 敬意の方向を答えよ。（源氏物語・桐壺）

（地の文）いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に…

答え：「候ひ」作者 → 帝（仕える対象）／「たまひ」作者 → 女御・更衣 解説：「候ふ」（謙譲）→受け手の帝、「たまふ」（尊敬補助）→動作主の女御・更衣。複数の女御更衣＋帝の三角構図。

#### Q82. 敬意の方向を答えよ。（源氏物語・桐壺）

（地の文）すぐれて時めきたまふありけり。

答え：作者 → 「ありける」者＝桐壺更衣 解説：「たまふ」尊敬補助。動作主＝桐壺更衣を作者が敬う。

### Q83. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・桐壺)

(地の文) はじめより我はと思ひ上がりたまへる御方々…おとしめそねみたまふ。

答え：「思ひ上がりたまへる」作者 → 御方々 / 「おとしめそねみたまふ」作者 → 御方々 解説：「たまふ」(尊敬補助) → 動作主の女御・更衣たち。

### Q84. 敬意の方向を答えよ。(枕草子・香炉峰の雪)

(会話文) 「少納言よ、香炉峰の雪、いかならむ」と仰せらるれば…

答え：作者 → 中宮 (仰せの動作主) 解説：地の文の「仰せらる」は中宮定子への二重尊敬。

### Q85. 敬意の方向を答えよ。(枕草子・香炉峰の雪)

(地の文) 御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、笑はせたまふ。

答え：作者 → 中宮 解説：「笑はせたまふ」二重尊敬。動作主の中宮を作者(清少納言)が敬う。

### Q86. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・若紫)

(会話文) 「雀の子を犬君が逃がしつる。伏籠の内に込めたりつるものを」

答え：(敬語を含まない、参考問題) 解説：紫の上の発言には敬語なし。

### Q87. 敬意の方向を答えよ。(伊勢物語・東下り)

(地の文) 「これなむ都鳥」と言ふを聞きて、…と詠めりければ、舟こぞりて泣きにけり。

答え：(地の文の敬語を含まない、参考問題) 解説：「言ふ」は普通の動詞。敬語なし。

### Q88. 敬意の方向を答えよ。(大鏡)

(地の文) 御年五十六にて隠れさせたまひにしかば、御諡を村上の御門と申す。

答え：「させたまひ」作者 → 村上帝 / 「申す」作者 → 村上帝 解説：「させたまふ」二重尊敬 → 動作主、「申す」(謙讓) → 申し上げる対象。

### Q89. 敬意の方向を答えよ。(大鏡)

(地の文) 入道殿、このことをいとねたく思しめしけり。

答え：作者 → 入道殿（藤原道長） 解説：「思しめす」（尊敬）→動作主。

### Q90. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・桐壺)

(地の文) 上達部、上人なども、あいなく目をそばめつつ、「いとまばゆき人の御おぼえなり」と…

答え：会話「いとまばゆき人の御おぼえなり」の話し手（上達部・殿上人）→「おぼえ（寵愛）」を受ける桐壺更衣／その寵愛を与える帝 解説：「おぼえ」（寵愛・評判）は帝から桐壺更衣に向けられる寵愛を指す。敬意の中心は、その寵愛の主体（帝）と対象（桐壺更衣）への話し手からの敬意で、「御」の接頭辞もこれを補強する。

### Q91. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・桐壺)

(地の文) 人のそしりをもえ憚らせたまはず…

答え：作者 → 帝 解説：「せたまふ」二重尊敬の打消。動作主の帝を作者が敬う。

### Q92. 敬意の方向を答えよ。(枕草子・第百四十六段)

(会話文) 「御覧じたれ」とて、御ふみを奉る。

答え：会話「御覧じ」話し手 → 御覧ずる人／地の文「奉る」作者 → 御文の受け手 解説：「御覧ず」（尊敬）→動作主、「奉る」（謙譲）→受け手。発信者は会話と地の文で分かれる。

### Q93. 敬意の方向を答えよ。(大鏡・道長)

(地の文) 太政大臣道長、御年六十二にておはしましけるが、いみじく盛りに栄えたまひけり。

答え：「おはしまし」「たまひ」作者 → 道長 解説：両方とも動作主の道長への尊敬。

### Q94. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・夕顔)

(会話文) 「かの白く咲けるをなむ、夕顔と申し侍る」と申す。

**答え：**会話の中の「申し」「侍る」話し手 → 聞き手（光源氏）／外側「申す」作者 → 光源氏 **解説：**会話の中の謙譲＋丁寧、地の文の謙譲。

---

### Q95. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・夕顔)

(地の文・心内文) 「**心あてに**それかとぞ見る…」とのみ**申したり**ければ、…

**答え：**作者 → 申し上げる相手（光源氏） **解説：**「申す」（謙譲）。

---

### Q96. 敬意の方向を答えよ。(徒然草・第五十二段)

(地の文) 仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を**拝まざり**ければ…ただひとり、徒歩より**詣**でけり。

**答え：**「拝まず」「詣で」作者 → 石清水八幡宮（神） **解説：**「拝む」「詣づ」（謙譲） → 参拝対象の神。

---

### Q97. 敬意の方向を答えよ。(更級日記)

(地の文・自伝) あづま路の道のはてよりも、なほ奥つかたに**生ひ出で**たる人、いかばかりかは怪しかり**けむ**…

**答え：**(敬語を含まない、参考問題) **解説：**作者菅原孝標女の自伝なので敬語なし（自分への敬語は使わない）。

---

### Q98. 敬意の方向を答えよ。(平家物語・敦盛最期)

(会話文) 「**あつらひ奉らむ**」と申しければ…

**答え：**会話「奉ら」話し手（熊谷） → 敦盛／「申しけれ」作者 → 申し上げる相手 **解説：**「奉る」（謙譲補助） → 敦盛、「申す」（謙譲） → 受け手。

---

### Q99. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・桐壺)

(地の文) 前の世にも、御契りや深かりけむ、世になく清らなる玉の男御子さへ**生まれたまひ**ぬ。

**答え：**作者 → 男御子（光源氏） **解説：**「たまふ」（尊敬補助） → 誕生の主体・光源氏。

---

## Q100. 敬意の方向を答えよ。(源氏物語・桐壺・冒頭)

(地の文) いづれの御時にか、女御、更衣あまた候ひたまひける中に、いとやむごとなき際にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。…父の大納言は亡くなりて、母北の方なむいにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえはなやかなる御方々にもいたう劣らず、なにごとの儀式をももてなしたまひけれど、とりたててはかばかしき後見しなければ、事ある時はなほよりどころなく心細げなり。

**答え**：「候ひ」作者 → 帝 / 「たまひ / たまふ / たまひ」(複数回) 作者 → それぞれの動作主 (女御・更衣たち、桐壺更衣、桐壺更衣の母など) **解説**：源氏物語冒頭の敬語の連続。発信者はすべて作者 (紫式部)。受け手は文脈ごとに動作主が変わる。最頻出。

入試レベル編 /20

### 採点振り返り

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- **合計** : /100

### あとがき

敬意の方向の核心： - **地の文** → 敬意の発信者は作者 - **会話文** → 敬意の発信者は話し手 - **心内文** → 敬意の発信者は思っている人物 - **手紙文** → 敬意の発信者は書き手 - **尊敬** → 動作主へ - **謙譲** → 動作の受け手へ - **丁寧** → 聞き手・読み手へ

源氏物語・枕草子・大鏡など、敬語の連続が難関大頻出。「誰が」「誰に」を構造的に分解する力が必要。

**著作権**：個別指導塾フィット / 中本裕太